

平成26年7月29日(火) 18:00~19:00
かでの2・7 5階 540会議室

1 開会(地域保健課 丸子主幹)

2 挨拶(地域保健課 栗井課長)

3 出席者

(1) 委員

堤委員長、高橋委員、東委員、三戸委員、田森委員、宮田委員、杉澤委員、築島委員、山本委員、岡野委員(9名出席)

(2) オブザーバー

一般社団法人北海道医師会(柿崎課長、須藤主事)
道立衛生研究所(長野主幹、石田主幹、市橋主査、三好主査)

(3) 事務局

地域保健課(栗井課長、丸子主幹、小山主査、清水主任、井上専門員)

4 議事

(1) 日本脳炎予防接種のあり方について

(事務局から資料に基づき説明)

堤委員長 | この資料を基にして、今後、日本脳炎予防接種の北海道でのあり方についてを協議していくということだが、あり方について、という資料ではなく、あり方を考えるための資料。

岡野委員 | これらの資料は、どういう意図でこの並びにして、選んだのか。温度の変化とか、よりリスクがあるということか。

事務局 | 昨年度1回行った際の基礎資料に、今回新しい資料を差し込んでいったということ。

堤委員長 | 北海道では、今まで地域指定ではずしていたのは、北海道において感染の危険が比較的少ないことが想定されたからだと思う。北海道では、蚊もいないし、ブタの調査でもせいぜい0か1かという状況。北海道で危険が高まっているという状況はないということが言えると思う。事務局で示したのが、かなり人の動きがあるということ。修学旅行の生徒がどんどん行っている。もう一つ、5~6%の人が出入りしているということ。そういうことを考えると西日本の危険のある所に行くチャンスは多い。昔から多かったのかということだが。両方の面から考えて、北海道で地域指定を解除するか、ということだが。

今後どうしていくかということを含めて、何かありますか。

三戸委員 | 北海道医師会としては、本州から子どもたちが来て、本州では無料で打っていたのにこちらではお金がかかると、不公平ではないかと、あるいは医療機関からそのような意見があった。今回札幌市医師会と道の医師会の代議委員会でその質問が出て、このような事情を皆さんに考えてもらおうということで、色々対応をしているところ。その中で、現状が変わっていないということで、日本脳炎のウイルスはそんなに増えていない状況。

資料の11ページにもあるように、ワクチンを打つことによって発生率が低くなることが考えられる。ワクチンの有効性は当然ある。前のマウスのワクチンから変更となったが、安全性に関しても、発熱くらいで重い副反応が

出ない。日本医師会でも、ワクチンで予防できる疾病に関しては、ワクチンでなるべく予防する方向にするべきだという意見が出ている。医師会では署名を集めることとした。患者さん方がどういう意見があるかとお聞きしながら署名を集めている。やはり説明するとほとんどの患者さんは、今までやっていなかったのは不思議だとか、ぜひやっていただきたいという声が多くある。

先日、朝日新聞から取材を受けて、7月23日に記事になった。

状況はそれほど変わっていないが、患者が実際に出てから考えるよりは、そういうことをすべきではないかと思う。

北海道医師会の長瀬会長から知事に、こういう状況だがなんとかならないかと話をしたら、知事もそれは前向きに考えるべきではないかという話もしている。

今回、区域指定を外す方向に進めていただきたい。

岡野委員 10年位前に既存の予防接種でADEMの問題が起こっている。そのころにも北海道を区域指定から外す議論があったが、たまたまそのこともあり区域指定を継続したという経緯もある。

堤委員長 向こうで1回か2回受けてきて、北海道で受けようと思ったら、定期接種を行っていないという方もいる。感染の状況はほとんど変わっていないということがあるが、取り巻く社会状況というか、予防接種の環境が変わってきていることは確か。

杉澤委員 予防接種を実施する市町村の立場である。日本脳炎の予防接種を行う必要がない地域の指定を行っても、自治体の実施してはいけないわけではないとの説明であったが、各自治体が個別に判断することは難しいことなので、根拠を持って道として判断していただきたい。

山本委員 資料の見方を教えて欲しい。6ページで、マウス由来のワクチンより乾燥細胞培養ワクチンの方が安全性が高まったということだと思うが、副反応の発生リスクを見ると、マウスの方が100万人あたり19.84人、乾燥細胞培養ワクチンは28.97人と多くなっているが、これは重篤者は減っているということか。

事務局 ご指摘のとおり。重篤や入院、後遺症を見ると、副反応発生率は減っている。

山本委員 報告数自体は多いが、軽症なものが多いということか。

事務局 はい。

三戸委員 ワクチンの副反応として発熱がある。

山本委員 6ページの平成23年度のADEMが7人出ているが、疑いということによいか。

堤委員長 細胞培養ワクチン、熱が高すぎて下げた。かなりいいワクチンができている。

岡野委員 予防接種を受けていない人が蓄積してくる。全国的には積極的勧奨を控えた際に受けなかった人をレスキューしている。北海道ですることとなった場合に、そういうこともありうることだから、出来れば早く決断した方がいいと思う。

三戸委員 全国的には、本来なら小さい頃に打つべきだった者を20歳までレスキューするという形になっている。国の考え方の20歳で切るというのは、よく解らないが、ある程度目安になるのではないか。

岡野委員 30歳過ぎの頃から抗体が落ちてくる。50代が一番低い。そういう方々に任意でも積極的に受けなさいという働きかけも本来なら必要と思う。

東委員 発症するのは高齢者、若い者は免疫機能が邪魔するので、不顕性で終わるとのことか。

- 堤委員長 発症は1%以下。高齢者がブタの近くにいるのかというのわからない。あとは免疫が落ちてくる。
- 岡野委員 60歳では一般的な免疫は低下しない。そもそも不顕性感染が多いので、このデータは顕性しか見ていないのでその評価が非常に難しい。発症したら重症になることが問題になる。予防接種を打っていない方々の経年年齢的な抗体保有率が上がっているということはそれだけ感染が起きているということ。
- 堤委員長 未接種者も抗体価が上がっていく。
- 築島委員 社会的な人の移動という中で、感染リスクが心配だというのが皆さんの意見。道内の感染リスクが上がっているという証拠は本日の資料の中でははっきり無いのかも知れないが、平均気温が上がっている状況はある。今年ブタや蚊の調査を例年より増やして行うということで、今年の結果はどうか、というところ。今後も警戒して見ていく必要があると思う。そのデータに基づいた判断も必要なのではないかと、と思う。
- 田森委員 昨年度の議事録も見たが、昨年度の議論から新たな事実が出ている実感がない。コスト&ベネフィットという観点も、患者が少ないこともあり、難しい。道内では良くても、出かける人が増えているということ、ワクチンに対する考え方が変わってきたという、必ずしも科学的な根拠だけではなく、時代の流れ等ということでも指定を解除するということに関しては持つていくことができるのではないかと考える。
- 東委員 現在のワクチンが安全だということ。相当な人の移動があるということ。ワクチンに予防効果が確かにあるということを見ると、予算のことはわからないが、出来るならば定期接種化をするのがこの委員会の考え方でいいのでは。
- 高橋委員 発症したら重篤であるということを含めて考えると、予防する方法があるのであれば、是非対策としてのワクチンが有効であれば、するべきだろうと思う。
- 山本委員 三戸委員からお話があったように、日本脳炎ワクチンの予防接種が本州から来た方が本州では無料なのに、北海道に来たら有料になるということ。安全なワクチンであるということ。北海道の方が本州、海外へ出向いて活躍してもらいたい、その時にも有効手段としてのワクチン接種は重要と思う。
- 杉澤委員 「出来るだけ急いで」「すぐに」とのことであるが、全市町村に関わるので難しいのではないかと。少し時間的余裕を持たせていただきたい。もしくは、自治体によって「すぐに出来る場所はすぐに実施、ただしいつまでに必ず実施する」など経過措置が必要ではないか。
- 堤委員長 市単位、町単位で実施することは可能なのか。
- 事務局 法令では市町村単位で実施できる。地域指定については知事に委ねられている。道が実施しない地域として指定した場合も、実施者の市町村が、長の判断で定期接種として実施することは妨げないとされている。旭川市の委員が言ったように、法令で担保されていても、市町村単独では決めかねるということ。
- 東委員 旭川市だけが実施するというのは望ましくない。実施するのであれば北海道全域で足並みを揃えないと。
- 堤委員長 今後、どのように議論を進めていくか、この委員会としてどのように進めていくか事務局から考えはありますか。
- 事務局 まず最初に委員の皆さまに確認したいことがあります。A類の定期接種の対象疾病の中で日本脳炎のみ区域指定ができることとなっている。区域指定をするしないに関わらず、国のワクチン接種に係る地方交付税措置はされている。実施にあたっては、実施主体の市町村には交付税措置がされているが、

負担や合意形成のための準備の時間がかかると思う。

また、患者が出ていない、人の移動が6%あるということ、比較的安全性の高いワクチンであり、明らかに効果はある。北海道でもこれから発生するかもしれないというのが本日の議論です。

一点目の確認は、直近の2ME抗体がここ10年間で検出されている。少なくとも、ブタの感染については、昔に比べ感染率が高いことが推定される、ということ推測として言わせてもらっても良いかということ。

もう一つお聞きしたいのは、不顕性感染を含めて、道内で感染者はいるかもしれないと考えても良いか、ということをお聞きしたい。

堤委員
岡野委員
ブタも感染していても70頭のうち1頭位。蚊がいることは確か。

北海道にずっと住まれて道外にも行かない方の血清を調べてみたら陰性かもしれない、

堤委員
事務局
三戸委員
ブタでさえ70頭のうち陽性は1頭。

人においては感染という事象が起きていない可能性も高いということか。

我々も本州に頻繁に行っているので、多分抗体があるのではないかと。普段移動している方は蚊に刺されているし、不顕性感染をしているのではないかと。

岡野委員
三戸委員
日本国内にこの様な地域があること自体が問題。

北海道でしていないということが問題。北海道に蚊がいるということは出ているから確か。

事務局
本州で感染の機会はあるかもしれない。ただ、北海道を舞台として感染の機会は多分ないかもしれないけれど、いずれにしてもリスクはあると言える。また、コスト&ベネフィットと言っても、患者さんが出ていないので、そういう議論では方針はまとまらないと思う。

2回の会議での意見を活用しながら、今まで集めたデータを活用し、私ども事務局でたたき台を作るが、この委員会に、本道における日本脳炎ワクチン接種に関する提案、報告書を作成していただきたい。そして親会に提案していく。医師会の活動も踏まえる。最後は知事の政策的判断。

知事の政策的判断のツールとして本委員会でワクチン接種に関する報告書を取りまとめていただきたいと考えている。

出来れば、2月、3月。ずれても年度明け早々にこの委員会で報告書を作成をして親会に提出し、一定の見解を打ち出す。

6月の北海道議会を経て、7月以降を目処に知事がワクチン接種についての考え方を決定していく。このようなスケジュールとなっていくのかと考える。

堤委員長
事務局
原案を事務局で作るということか。

はい。委員の方々に都度お聞きする。

堤委員長
事務局
今年度中に委員会としての意見書を提出すると。

はい。

岡野委員
事務局
行程を早くすることは出来ないのか。

市町村に準備が必要な部分がある。

岡野委員
事務局
市町村には前もって連絡しておくことは可能か。

市町村に言うのは報告書が出来てから。

三戸委員
前回この委員会で結論先延ばしになったようなことを親会で話したら、親会で指定外して欲しいというようなことが座長の名前で出た。その時には、本委員会を差し置いて親会で決める訳にはいかないということで終わった。親会の前にきちんとしたものを作って親会に提出した方が良いのではないかと。

医師会としても、この委員会ではっきり決まらない場合には、秋の郡市医

師会長会議の中で、議員の方々に、各市町村に要望書を出すようなことも考
えている。議会の方に対する働きかけも医師会として行う予定がある。

今回の取りまとめを、少し余裕をもった締め切りにしていただいて、やる
方向というのだけははっきりだしていただきたい。

事務局

本年度末までには、報告書を親会へのアクセプトまで含めてやりたいとい
うこと。

報告書を作るということで委員に賛同をいただければ、2月、早ければ年
明け前後に、委員の皆さんにたたき台を示したい。報告書を作るということ
についてご了解いただきたい。

堤委員長

140頭の結果はいつ判明するか。

ワザバー

秋の初め頃。

堤委員長

導入されている全てのワクチンは地域住民を守るということ。その人が旅
行するから、その人が動くからという意味でのワクチンはひとつもない。渡
航ワクチンはあるが、実費。本当の定期は全て、そこにいる人を守るという
概念で導入されたワクチン。今回の論点は、出来れば、地域の危険が上がっ
たということを言っていないと。移動する人たちのためにワクチンを導入
するのではない。

岡野委員

日本脳炎の場合は、ヒトーヒト感染は無いと考えられるので、このワクチ
ンは本人を守るという意味合いが強い。

事務局

我々も、色々考えていく。

堤委員長

今年度中にもう一度集まることになりますね。

田森委員

仮に、年度内に報告書が出たとして、最速で27年度当初から解除すると
言われても市町村としては無理。

最速で28年度と考えると良いか。

事務局

市町村の準備があるのは承知している。少なくとも27年度における解除
の可能性は低いと考えていいのではないか。

堤委員長

何か他にありますか。

以上です。ありがとうございました。